



証券コード：7963

2021年12月期 決算説明資料

「世の中にない」「真に役立つ」
それが、私たちの研究開発の出発点です。

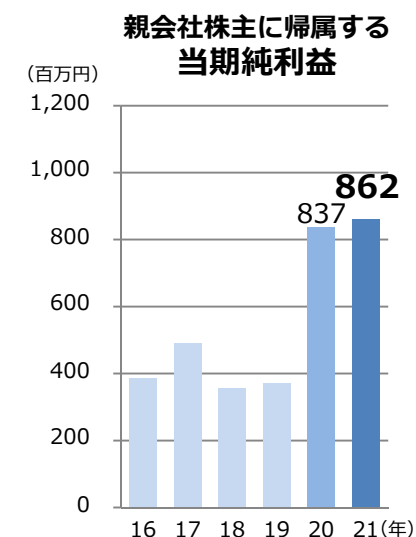
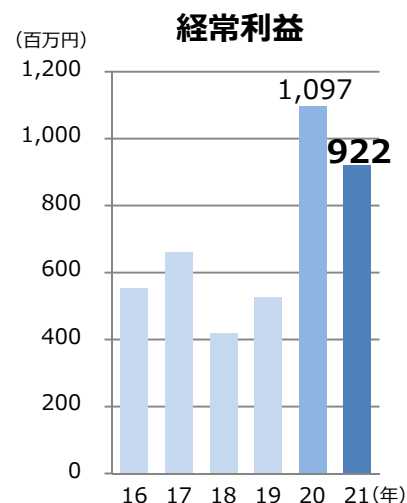
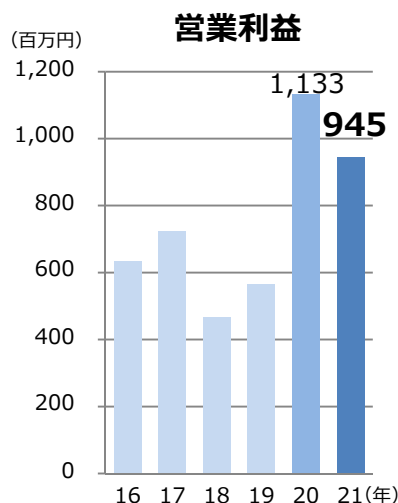
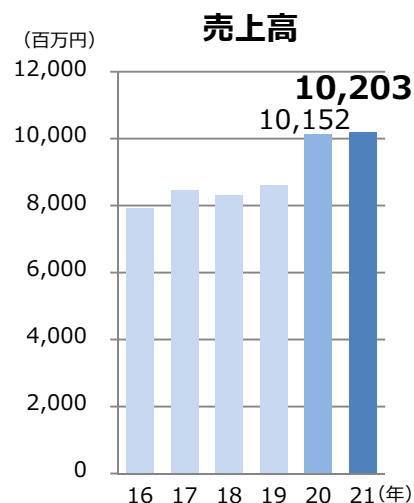
クリーン、ヘルス、セーフティで社会に
 **興研株式会社**

連結損益の状況

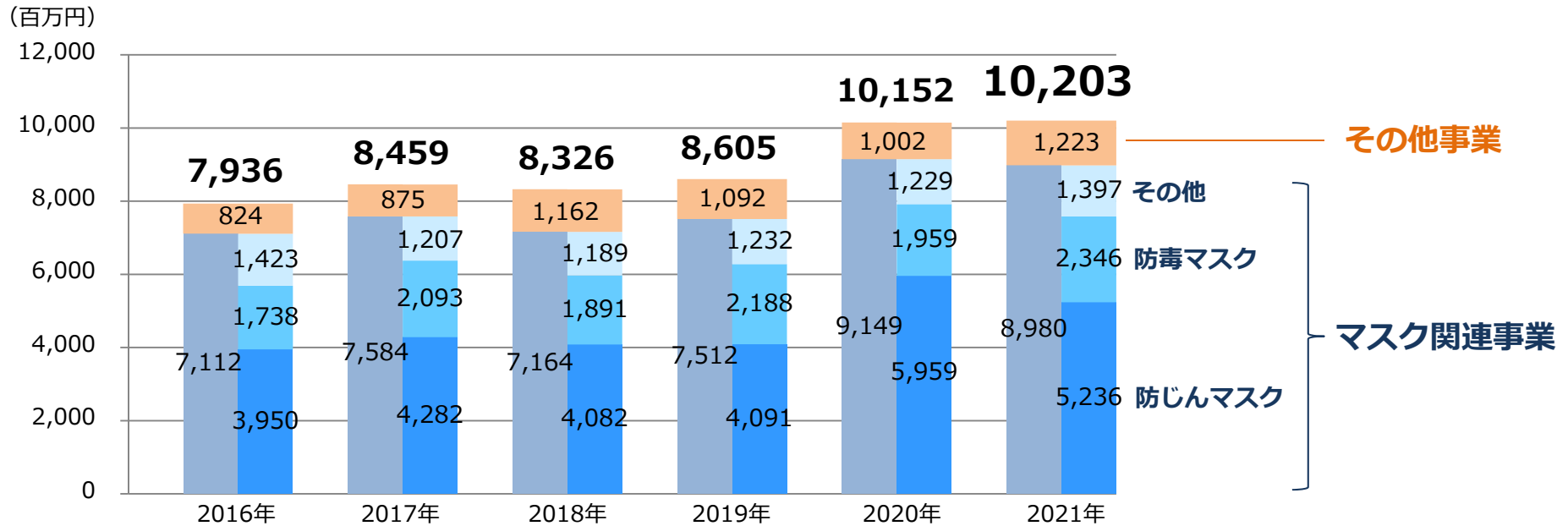
○売上高は二期連続で過去最高額を更新、営業・経常利益は原材料費高騰の影響で減益に

(単位：百万円)

	2020年12月期		2021年12月期		前連結会計年度比	
	連結実績	売上高比	連結実績	売上高比	増減額	増減率
売上高	10,152	100.0%	10,203	100.0%	+51	+0.5%
売上原価	5,261	51.8%	5,556	54.5%	+294	+5.6%
売上総利益	4,890	48.2%	4,647	45.5%	△243	△5.0%
販売費・一般管理費	3,757	37.0%	3,701	36.3%	△56	△1.5%
営業利益	1,133	11.2%	945	9.3%	△187	△16.5%
経常利益	1,097	10.8%	922	9.0%	△175	△16.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	837	8.3%	862	8.5%	+24	+2.9%



連結セグメント別の業績



マスク関連事業

- ・感染症対策用N95マスク「ハイラック350型」は、新型コロナウイルス感染症の第4波及び第5波の感染拡大により医療機関の継続使用・指定購入による需要が引き続き高く推移したことに対し、増設した製造設備をフル活用して前連結会計年度を上回る製造・出荷数量で対応いたしました。
- ・産業用マスクの受注は、期後半からは前連結会計年度実績を上回る傾向を示したものの、上期の落ち込みの影響が大きく、前連結会計年度に対しては減収という結果でした。
- ・これらにより、当事業の売上高は89億80百万円（前連結会計年度比1.8%減）となりました。

その他事業

- ・オープンクリーンシステム「KOACH」の販売は、当社の環境テクニカルサイト・ショールームと製品品質を確かめたいお客様をネットをつないだオンライン説明会の積極展開によって成約数・成約率は共に向上しました。中でも大型機種のプロアーコーチが、通期に亘り順調に売上を伸ばしました。この結果、コロナ禍の制限が続く中でしたが、販売台数、売上高は過去最高となりました。
- ・自動ブラッシング機能付き内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍ⅡG」については、対面営業の機会確保が当連結会計年度においても難しく、売上高は前連結会計年度並みに留まりました。
- ・これらによって、当事業全体としての売上高は、12億23万円（前連結会計年度比21.9%増）となり、三期末に過去最高額を更新しました。

連結財務の状況（要約貸借対照表）

（単位：百万円）

	前連結会計年度 2020年12月31日	当連結会計年度 2021年12月31日	増減	主な増減要因
資産の部				
流動資産	6,860	7,988	+1,128	現金・預金の増加：+622 電子記録債権の増加：+412
固定資産	12,143	11,611	△532	建物・構築物 減価償却累計額の減少：△189 機械装置・運搬具 減価償却累計額の減少：△191
資産合計	19,004	19,600	+595	
負債の部				
流動負債	4,325	4,108	△217	買掛金の減少：△60 未払金の減少：△66 未払法人税等の減少：△86
固定負債	4,213	4,378	+165	長期借入金の増加：+166
負債合計	8,538	8,487	△51	
純資産の部				
純資産合計	10,465	11,113	+647	利益剰余金の増加：+635
負債純資産合計	19,004	19,600	+595	

連結財務の状況 (要約キャッシュ・フロー計算書)

(単位：百万円)

	当連結会計年度 2020年1月1日 ～12月31日	当連結会計年度 2021年1月1日 ～12月31日	主な内訳
営業活動によるC・F	1,373	655	税金等調整前当期純利益：1,176 設備投資に対する補助金収入：△260 売上債権の増加額：△700 減価償却費：666 法人税等の支払額：△364
投資活動によるC・F	△606	147	有形固定資産の取得による支出：△238 有形固定資産の売却による収入：139 設備投資に対する補助金の受取額：260
財務活動によるC・F	△680	△ 176	長期借入れによる収入：1,400 長期借入金の返済による支出：△1,172 配当金の支払額：△226
現金及び現金同等物に係る換算差額	△14	△ 3	
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	72	622	
現金及び現金同等物の期首残高	1,492	1,564	
現金及び現金同等物の期末残高	1,564	2,187	

事業トピックス 1. 新型コロナウイルス感染症への対応

当社グループは、収束時期の見極めが困難となっている新型コロナウイルス感染症の拡大がもたらすリスク及び課題に対し、以下のような取り組みを行っております。

○マスクの生産体制

感染対策用マスクの需要は、ワクチン接種の進展等に伴い一時縮小傾向にありましたが、変異株の発生により再び拡大するなど、新規感染者数の動向によって縮小と拡大を繰り返す1年でした。

こうした大きく変動するマスクの受注状況に対し、当社グループは、国内（中井テクノヤード・群馬テクノヤード）及びタイの生産子会社（SIAM KOKEN LTD.）において、減産・増産を機動的かつ柔軟に行い、市場の需要変化に対応しました。



中井テクノヤード



群馬テクノヤード



SIAM KOKEN LTD.

○営業活動

感染拡大に伴う行動等の制限が長期に及ぶ中、計画的な訪問・対面営業が難しいため、Web会議等のシステムを活用した新しい営業活動を全国の営業所で推進しました。

「KOACH」の販売においては、案件に対する個別提案営業が評価され、成果につながっています。今後さらにこれらの営業手法を発展させ、リモートワークによる顧客、代理店への効果的な営業へと進化させてまいります。

○社員の感染対策

全社員は当社製N95マスク「ハイラック350型」を常時着用し、在宅勤務やテレビ会議を効果的かつ機動的に活用しました。

今後もコロナ禍が収束するまで、社員の感染対策を徹底し、受注から生産、出荷に至る一連のオペレーション体制の維持に努めてまいります。

医療従事者を感染リスクから護るために、当社では、高性能・高機能の感染対策用マスクの普及及び新製品の開発、販売に取り組んでおります。

○感染対策用N95マスク「ハイラック350型」の普及活動を継続

コロナ発生前より、フィット性の高さなど、その高性能、高機能が評価され、感染症指定医療機関の約6割で採用されていたのが感染対策用N95マスク「ハイラック350型」です。

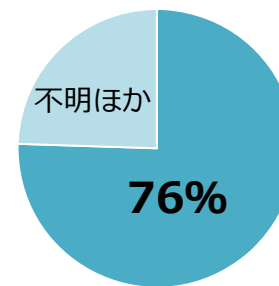
コロナ発生以降、全国の医療機関では国内外製の様々なマスクが使用されることになりましたが、以前より「ハイラック350型」をご使用いただいていた施設からは、「配布されたマスクはフィットしない、とてもじゃないが怖くて使用できない」といった声があがり、また「ハイラック350型」を初めて使用される施設からは「フィット性能が全然違う、引き続きハイラック350型を使用したい」という要望が多数寄せられました。

こうした声に対し、当社グループは供給量を拡大して各所からの要望に応えた結果、感染症指定医療機関での採用率は8割近くまで拡大しています。（2021年12月末現在）

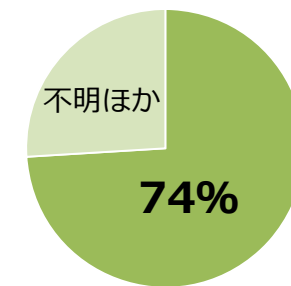


「ハイラック350型」

ハイラック350型の採用率



感染症指定医療機関



保健所

2. 改正特化則（溶接ヒューム）への対応

2021年4月1日より溶接ヒュームが特定化学物質（第2類物質）として規制され、金属アーク溶接等作業を行う多くの事業所では、改正特化則等に基づく溶接ヒューム対策が始まっています。

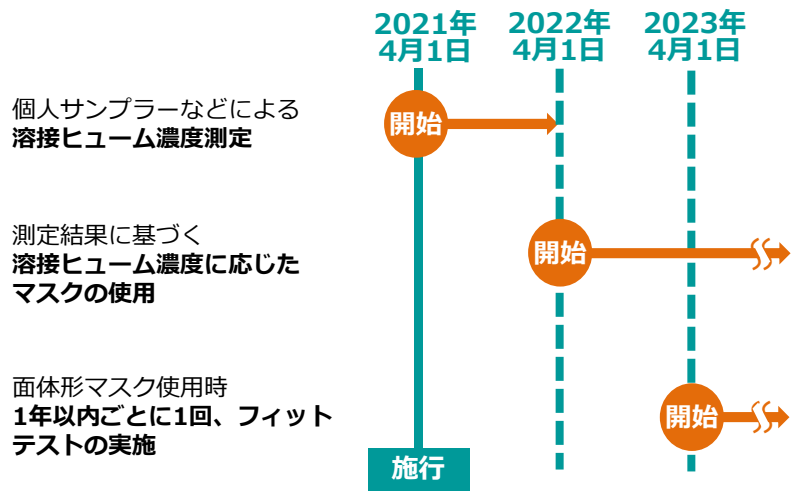
当社では、改正された政省令の概要や厚生労働省の告示に基づいた金属アーク溶接等作業を継続して行う屋内作業場における呼吸用保護具の選択方法などを対象事業所様へお伝えするとともに、溶接ヒューム対策に適した新製品の開発、販売を行っています。

○新たに必要となった呼吸用保護具に関する措置

改正された特定化学物質障害予防規則等が施行されたことにより、金属アーク溶接等作業の中でも継続して作業を行う屋内作業場においては、個人ばく露測定による空気中の溶接ヒューム濃度の測定が開始されています。さらに2022年4月1日からは、この測定結果を基に、溶接ヒューム（マンガン）濃度に応じた呼吸用保護具の使用が義務付けられます。

このほか2023年4月1日からは、面体形の呼吸用保護具を使用する場合については、1年以内ごとに1回、フィットテストにより呼吸用保護具が適切に装着されていることの確認が必要となります。

金属アーク溶接等作業を行う際の呼吸用保護具に関する主な措置



○金属アーク溶接等作業で選択可能な呼吸用保護具をフルラインナップ

金属アーク溶接等作業を継続して屋内作業場で実施する際には、空気中の溶接ヒューム（マンガン）濃度の測定結果を基に要求防護係数を算定し、その要求防護係数を上回る指定防護係数を持つ呼吸用保護具を選び使用します。

これに対し当社は、指定防護係数33を有する電動ファン付き呼吸用保護具「BL-7005」を新たに開発し市場投入し、全ての指定防護係数（10～1000）において、呼吸用保護具をラインナップいたしました。

新製品 電動ファン付き呼吸用保護具「BL-7005」

「BL-7005」は、ろ過材性能が99.0%以上（PL2）、指定防護係数33を有するコードレス電動ファン付き呼吸用保護具で、当社独自のマイティミクロンフィルターを採用しています。

製造業や建設業などの溶接現場で導入実績の高い電動ファン付き呼吸用保護具「BL-1005（PL1）」の特徴を受け継いだ「溶接面との相性が考慮された形状」、「バッテリー搭載でも軽量」といった特長を持つ溶接作業に最適なモデルです。



金属アーク溶接等作業で選択可能な呼吸用保護具（例）

要求防護係数 溶接ヒューム濃度 (マンガンとして)	選択可能な 電動ファン付き呼吸用保護具	選択可能な防じんマスク
1000未満 15mg/m ³ 以上50mg/m ³ 未満	指定防護係数1000 サカサ式 BL-711H	
300未満 2.5mg/m ³ 以上15mg/m ³ 未満	指定防護係数300 サカサ式 BL-321H	
50未満 1.65mg/m ³ 以上2.5mg/m ³ 未満		指定防護係数50 サカサ式 1521H
33未満 0.7mg/m ³ 以上1.65mg/m ³ 未満	指定防護係数33 サカサ式 BL-7005 新製品	
14未満 0.5mg/m ³ 以上0.7mg/m ³ 未満	指定防護係数14 サカサ式 BL-1005	指定防護係数14 サカサ式 1781DWC
10未満 0.2mg/m ³ 以上0.5mg/m ³ 未満		指定防護係数10 サカサ式 1005R
4未満 0.2mg/m ³ 未満		

3. 「KOACH」 営業

コロナ禍により対面営業が引き続き困難な中、当社ではリモート営業の積極的な推進を代理店と協働して取り組んでいます。

○対面営業からリモート営業へ

オープンクリーンシステム「KOACH」については、未だ続くコロナ禍にあって、これまでの実機デモンストレーションによる体感型営業が難しくなり、営業機会が減少傾向を示す中、先進技術センター環境テクニカルサイトと製品品質を確かめたいお客様をネットでつなぎ、実機デモンストレーションをライブ中継するオンライン説明会を全国の営業所で積極的に展開しました。

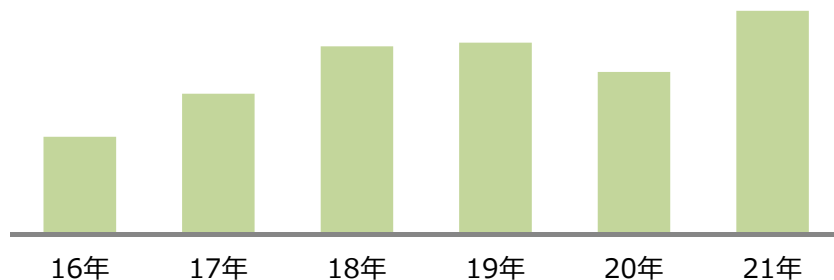
この説明会は、コロナ感染リスクを回避でき、移動も伴わない点などが好評を博し、見学総数がコロナ前よりも増え、高い品質性能を詳しく直接的に確認されたお客様が全国各地に拡がりました。参加されたお客様からは省エネ等の本質的メリットの紹介やクリーンルームのJIS改正の解説も非常にわかりやすいと高評価を得ており、新しい営業手法による実績が増加しています。



お客様の様々なご質問に対し、実機を使っ的確に応える当社営業員

販売台数の推移

リモート営業の推進によって、見込み客からの成約率・成約数が向上し、当期のKOACHの販売台数、売上高はコロナ禍前の2019年実績を超える過去最高となりました。



4. 通販サイト

2021年10月、当社の公式オフォシャル通販サイト「興研ハイラックストア」を開設いたしました。

○開設の経緯

新型コロナウイルス感染症の発生以降、当社へのお問い合わせが医療関係者をはじめ一般の方々からも多数寄せられました。その内容としては、ご注文や在庫・納期確認のほかに「私はアレルギー体質・化学物質過敏症なのですが今まで購入していた専用マスクが買えなくて困っています」という切実な声もありました。その他、「できれば公式サイトから買いたい」等の多くの声が寄せられました。

現在のところ医療機関への供給を優先しているため、商品アイテムとご注文数は3品種に限定させていただいておりますが、当社製マスクのご購入でお困り際などは、本ストアをご活用ください。

○本ストアへのアクセス方法

<https://koken-onlinestore.com/>

ハイラックストア 検索



○商品アイテム



感染対策用マスク
ハイラック350型



一般の方向けマスク
ハイラックNeo



におい・防臭対策用マスク
防臭マスク マスキーMD

2022年12月期連結業績・配当予想

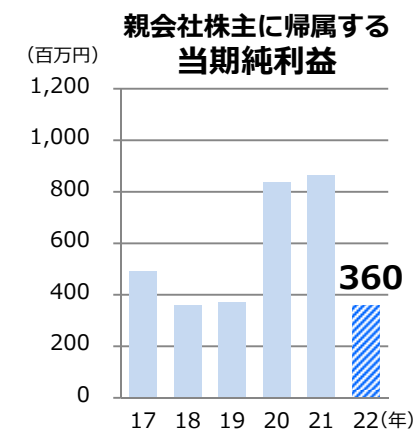
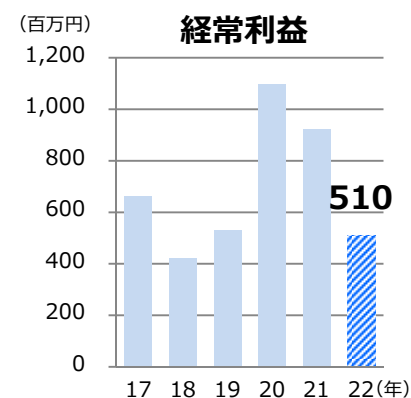
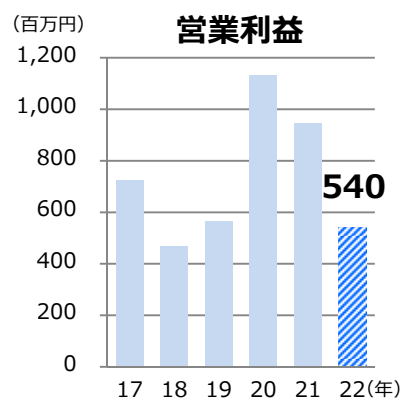
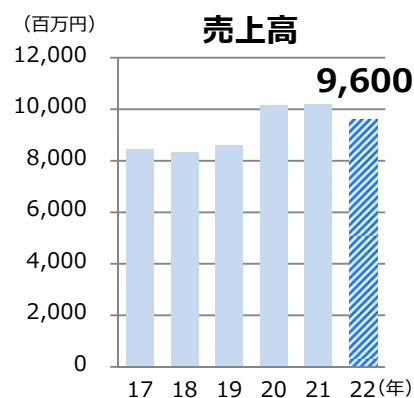
次期（2022年12月期）は、新型コロナウイルス感染症による社会経済活動の制限が緩和され、国内景気の持ち直しが進むことが期待される一方で、新たな変異株の発生や感染の再拡大・長期化が懸念されており、依然として見通しが難しい状況が続くと予想されます。

こうした経営環境の中、当社グループは、『クリーン、ヘルス、セーフティ』の各分野に対し、オンリーワン・ナンバーワン技術、製品の研究開発、製品開発に不断に取り組み、これまでの営業活動を更に進化させながら、新市場の育成・拡大に努めてまいります。感染対策用マスクについては、引き続き安定供給に努めてまいります。コロナ収束後の需要減も見越し、それを補完すべく産業用マスクの多面的な需要掘り起こしやオープンクリーンシステム「KOACH」、自動ブラッシング機能付き内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍ⅡG」の拡販に注力してまいります。また、原材料費等の値上がり傾向が続いており、さらに厳しい経営環境に置かれますが、研究開発と経営の効率化に努め、最大限の成果を求めてまいります。

次期は、二期続いた特需的な売上の減少を一部織り込み、売上高96億円（当連結会計年度比5.9%減）、営業利益5億40百万円（同42.9%減）、経常利益5億10百万円（同44.7%減）、親会社株主に帰属する当期純利益3億60百万円（同58.3%減）となる見通しです。

（単位：百万円）

	2020年12月期 連結実績	2021年12月期 連結実績	2022年12月期 連結予想
売上高	10,152	10,203	9,600
営業利益	1,133	945	540
経常利益	1,097	922	510
親会社株主に帰属する当期純利益	837	862	360
1株当たり当期純利益	167円34銭	172円27銭	71円92銭
1株当たり期末配当	45円00銭 普通25円+特別20円	35円00銭 普通25円+特別10円	25円00銭



（注）この頁にある連結通期業績予想及び配当予想は、2021年12月期決算短信発表日（2022年2月10日）現在、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて記載しております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在（「2021年12月期決算短信〔日本基準〕（連結）」の公表日／2022年2月10日）入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

本資料は、投資勧誘を目的にしたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定は皆様自身のご判断で行うようお願いいたします。

本資料の掲載内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報やその誤りなど、本資料の利用によって生じた損害、障害等に関しましては、当社は事由の如何を問わず一切責任を負いませんので、ご了承ください。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
E-メール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <https://www.koken-ltd.co.jp/>